

「あの日、あの時から」

新潟教会 長倉 望

「ハチドリの一としずく」というアンデスの先住民に伝わる話があります。森の火事にわれ先にと逃げていく動物たちの中で、一羽のハチドリだけが、いったりきたり、くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落としている、というお話です。「そんなことをしていったい何になるんだ」といって笑う動物たちに、ハチドリはこう答えます。「私は、私にできることをしているだけ」。お話はこのセリフで終わります。私はこの話を以前から知っていましたが、実はあまり好きではありませんでした。あまりにも理想的すぎると感じていたのです。けれども、東日本大震災にあたり、何度も小さな自家用車で仙台に物資を運ぶ車中この話を思い起こしました。このお話だけではありません。屋根をはがして病人をつりおろした 4 人の話や、5 つのパンと 2 匹の魚の話、たくさんの聖書の物語がその車中何度も何度も思い起こされ、励まされていたのです。

新潟地区には、2004 年の中部地震の経験から、地区組織の中に“被災支援担当”という部門が現在も常設されています。県内あるいは隣県の自然災害に対して、被災状況の調査ならびに初動期の支援を行うのがその目的です。今回の東日本大震災においても、震災から 2 日後の 3 月 13 日に三条教会で行われた新潟地区総会を終えて、新井純牧師と西川幸作牧師が被災支援担当として仙台に入りました。14 日のことでした。「関東教区内にも被災状況があるのは承知しているが、地理的な要因から、新潟地区は東北の支援に入る」との判断でした。

私の携帯電話に新井牧師から「ボランティアセンター立ち上げに必要な物資を購入して新潟から運んでほしい」との要請があったのは、その日の夜の事です。仙台は当時、物流の停止、ガソリンの不足、ライフラインのうち特に都市ガスが停止し、都市機能が麻痺している状況でした。福島原発事故のニュースも大きな不安材料として暗くのしかかっていました。

私が到着したその日の夜、正式に東北教区支援センターが立ち上がり、物流が回復するまでの間、新潟教会に物資を集積し、そこからエマオに輸送することが話し合われました。実際には 3 月 21 日に物流が回復するまでの 1 週間、ガソリン携行缶、カセットコンロとガスボンベ、カイロが新潟教会に全国の諸教会・諸団体・個人から送られてきました。短い期間にもかかわらず、新潟教会のホールを半分以上埋め尽くした物資には、全国の方々の真摯な祈りがありました。集められた物資は新潟地区の牧師たちが何度も何度も仙台まで自家用車で運びました。山形に入ったらガソリンの給油ができなかったため、仙台～新潟は 1 度の給油で往復できるぎりぎりの距離だったのが幸いしました。

「私たちは微力かもしれないが、無力ではない」というのが支援センターエマオの合言葉です。確かに私たちは、非常事態であるからといって、特別なことができるわけではありません。けれども今、私たちに求められていること、つまり互いの安否を問うこと、共に祈ること、自分のパンを困難の中にある人と分かち合うこと、命を喜ぶこと、召された方とご遺族の慰めを祈ること、互いに励ましあうこと、隣人のために働くことは、私たちが今まで教会で大切にしてきたことそのものです。私たちはそのことを、より丁寧に、より確かに、より真摯に、より誠実に、より多くの人たちと共に積み重ねていくことが、これからも求められているのだと思っています。

第61総会期「東日本大震災」被災支援委員会

先日行われた関東教区総会において、教区総会議長に選ばれましたので、さっそく、総会での「関東教区『東日本大震災』被災支援委員会設置に関する件」の決議に従い、支援委員会の一員に加わることになりました。すでに動き出している教会と地域社会の中長期的な支援、復興のために、わたしも力を尽くしたいと願っています。

今回の大震災、津波、原発による被害の規模、範囲は極めて大きく、これまでのように一極に集中して力を注ぎ難いところをどのように調整してゆくか、ここに課題があると思います。奥羽教区や東北教区を中心とした救援・復興の働きに連帯しなければなりません、総会の中でも報告されたように、関東教区内の教会の建物被害も深刻で、こちらの方が経費的には大きい負担になると言われています。再建、復興に当たるそれぞれの教会が、希望を持って取り組んで行けるよう、確実な連帯の働きを進めたいと願っています。それと共に、この大きな試練と危機にあたって、この時こそ、目が開かれて、「わたしたちの心は燃えていたではないか」と語りあうときとなるように、祈っています。
(支援委員会委員長 秋山 徹 関東教区総会議長)

○新組織

委員長 秋山徹(議長) 統括主任 飯塚拓也(副議長) 書記 加藤久幸 (NEWS) 小池正造
委員 栗原清(書記) 熊江秀一(宣教部委員長) 平山正道(常置委員) 小林祥人(社会部委員長) 松下充孝(見識者) 金刺裕美(主事) 新井純(新潟地区) 生地善人(群馬地区) 澤田武(栃木地区) 久保田愛策(茨城地区) 土橋誠(埼玉地区)

○東日本大震災被災支援救援献金会計(献金報告)

(2011. 4. 1~5. 26) 単位:円

関東教区					
東中通	20,000	水戸自由が丘	26,500	東松山	41,599
新津	20,000	鹿島	75,050	三芳	19,550
長岡	5,000	竜ヶ崎	200,000	埼玉通り のぞみ会	55,890
栃尾	20,000	神の愛キリスト	11,000	埼玉通り	84,860
新発田	33,872	水海道 婦人会	40,000	ひかり幼稚園(草加)	162,370
巻祝福	10,000	竜ヶ崎幼稚園	50,000	武蔵豊岡	48,660
十日町	200,000	水海道	60,048	浦和東	53,100
新潟愛泉	31,000	取手	35,000	上尾合同	57,726
東新潟	136,617	日立	198,495	埼玉中国語礼拝	10,000
新潟 社会担当	200,000	諸川	62,000	秩父 婦人会	14,800
小出	100,000	水戸中央	5,500	東大宮	313,798
五泉	15,000	取手幼稚園	7,900	越谷	100,000
村上	52,000	下館	30,000	飯能	40,242
田沢	30,000	茨城地区小計	801,493	日野原記念上尾栄光	26,500
新潟地区小計	873,489			埼玉新生	200,000
		浦和別所	100,000	和戸	28,017
太田八幡	60,000	聖学院	50,000	川越	111,170
渋川	27,200	西川口	30,000	熊谷	70,000
高崎南	26,016	西上尾	10,000	〃 壮年会	3,000
太田八幡 婦人会	50,000	東所沢	30,000	初雁	21,200
館林	29,000	毛呂	30,000	深谷	438,281
吾妻	46,366	秩父	8,000	春日部	50,200
伊勢崎	197,969	本庄	13,000	桶川	5,000
群馬町	18,507	東京聖書学校吉川	30,000	埼玉地区小計	2,904,168
原市	199,500	所沢みくに	100,000		
原市教会CS	7,810	坂戸いずみ	70,000		
群馬地区小計	662,368	深谷西島	29,449	教区内合計	5,750,764
		北川辺	18,300		
宇都宮上町	93,016	久美愛	10,000	他に他教区・他団体・個人より	
小山	58,365	北本 有志	15,000	4,148,500円の献金をいただいて	
佐野	10,000	北本 CS	5,000	おります。教区総会においては、	
塩谷一粒	10,000	岡田公江(上尾合同)	7,430	韓国基督教京畿中部老会より200	
四條町	217,675	初雁	29,758	万円、在日大韓基督教関東地方会	
清愛幼稚園(四條町)	60,010	シャロンのぼら	30,000	より50万円をいただきました。	
那須塩原	10,180	鴻巣	45,000		
矢板	20,000	川口	72,610		
足利	30,000	行田	14,658		
栃木地区小計	509,246	埼玉和光	200,000		